

令和元年度 学校評価

学校経営方針

校訓「理想・優雅・自主自律」の下、学習指導や生徒指導、進路指導の一層の充実を図るとともに、すべての教育活動をとおして、生徒が主体的に活動する場面を展開する。また、自信と誇りを持たせ、自己肯定感を高めることで「知・徳・体」の調和のとれた人材の育成に努める。

教育目標

- (1) 生徒の基本的な生活習慣を確立し、誠実で気迫に満ちた人間性を涵養する。
- (2) 生徒の主体的な学習姿勢を育み、基礎的・基本的な学力の定着を図る。
- (3) きめ細かな学習指導と進路指導をとおして、生徒の自己実現を図る。
- (4) 地域や社会の発展に向けて、主体的に貢献しようとする態度を育成する。

今年度の重点目標

- (1) 生徒会活動及び部活動、ボランティア活動等の充実に努める。
- (2) 生徒の学習習慣の確立及び学力の向上を推進する。
- (3) キャリア教育を推進し、生徒の進路目標の実現と人格の完成を目指す。
- (4) 魅力に溢れ、地域から信頼される学校づくりに努める。

学校関係者評価のポイント

- *自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。
- *自己評価の結果は指標等とともに妥当なものであるか。
- *自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適当であるか。

評価 ⇒ 4 : 十分達成
3 : 概ね達成
2 : 検討の余地あり
1 : 不十分

重点目標	評価項目	具体的方策または具体的指標	自己評価	学校関係者	
				評価	評価・具体的意見
(1) 生徒会活動、部活動、ボランティア活動	活動の場の設定	・自主性の育成に努める。 ・授業や学校行事等をとおして、個人の能力を最大限に引き出し、積極的に行動できる人材を育成する。	3	・生徒がボランティア活動、生徒会等に積極的に参加してくれた。特に学校行事で生徒の動きが良かった。 ・フロンティア学の形態を変え、より地域密着型、実践型の活動の場を設定することができた。	3 ・ボランティア活動、生徒会活動は積極性があり評価的には達成されていると思う。 ・部室の整理整頓は出来ているか？
	主体性・協働力の育成	・基本的生活習慣を確立させる。 ・何事にも意欲的に取り組み、計画性をもった行動ができる人材を育成する。 ・個の特性を活かしつつ、幅広い視野の育成に努める。 ・下級生の模範となる「自主自律」の学校生活を確立し、最高学年としての自覚と誇りを醸成する。	3	・あいさつ、服装容儀面、時間の厳守については概ね良好。多くの生徒が生徒会活動に取り組み学校に貢献しようとする姿があった。ボランティア活動にも積極的に参加していた。 ・休日明けの欠席とスマホの使い方の関連性の現状把握と生徒へのアドバイスが必要である。 ・7:35着席が徹底していない。職員も含め、意識付けが必要である。	3 ・基本的な身の周りのことをきちんとすると、時間に余裕をもった行動をとることは大切。 ・主体性・協働力の育成には集団活動の体験が重要。積極的に参加するよう指導し、楽しく活動できる環境作りを。 ・活動の参加率や成果を数値化したり見える化したりすれば、よりイメージしやすくなる。
(2) 学習習慣の確立、学力の向上推進	主体的学習姿勢を育む授業の実現	・学習習慣を確立し学力向上に努める。 ・読書活動の推進に努め、読書をとおして、優れた知性と豊かな心を培い、自己的在り方・生き方を探究する態度を育成する。 ・主体的で発展的な学習の習慣を確立し、将来の扉を開く「確かな学力」を身に付けさせる。	2	・自立の時間(朝読書)、ビブリオバトルの実施などで読書意欲を高める機会を設けているが、全体的に意欲低下を感じる。新聞や新書を読む機会をさらに設ける必要がある。 ・家庭学習の時間が充分でない。先を見据えた学習、休日や長期休業中の過ごし方など改善の余地がある。 ・カリキュラム・マネジメント研究を推進中。	2 ・自ら動く必要性を感じるよう、多方面から刺激を与え続ける事が大切。 ・社会人への成長過程で情報収集力は大事。授業開始5分に社会的課題に関するスピーチを取り入れてはどうか。 ・読書の必要性に生徒自身が気づく機会を設けては。
	探究型学習の推進	・特色ある学校づくりを推進する。 ・学科・類型の特性を活かした教育課程を編成する。	3	・1年普通科の探究活動が計画的に取り組めた。 ・フロンティア学の発表会で多くの生徒が高いパフォーマンスを見せた。	3 ・自分の能力・知識を評価される場があることが重要。 ・パフォーマンスの高さをどう評価するか。評価の在り方が学びの方向性につながる。
(3) キャリア教育の推進、進路目標の実現、人格	ICT活用能力の向上	・ICTを活用したポートフォリオ作成を効果的に進める。 ・校務支援システムの効率的運用と活用促進を図る。	3	・ポートフォリオを活用して調査書を作成するシステム作りを急ぐ。 ・classiの新入試に向けた有効活用が不十分である。	3 ・ポートフォリオ教育の取入れは生徒のモチベーション向上に役立つ。
	新大学入試への対応	・生徒の進路希望を把握するとともに、入試制度改革に関する情報収集・周知に努める。	3	・英語外部認定試験等入試情報を丁寧に生徒・保護者に伝えることができた。今後も、定期的に新しい情報を提供したい。 ・身近な情報だけで進路選択をする生徒がいる。説明に工夫が必要。	3 ・二転三転する入試制度に対応する学校、生徒、保護者。大変だと思う。 ・保護者が関心を持たなければ情報は入らない。保護者への伝達がうまくいくとなお良い。
	生徒の自己実現	・生徒への進路情報提供の充実をとおして進路意識の醸成に努める。 ・下級生の模範となる「自主自律」の学校生活を確立し、最高学年としての自覚と誇りを醸成する。	3	・多様な進路講演会を実施することができた。進学相談会等での新たな参加大学もあった。 ・自己実現と自己中心的な発想の違いを理解させ切れていないと感じる。	3 ・自身の夢・目標を作り、話せる環境を整えることが大切。 ・OB・OGの成功体験講話の取り入れを。
(4) 魅力に溢れ、地域から信頼される学校づくり	地域から信頼される学校づくり	・家庭や地域、関係団体と建設的な関係を築き、「開かれた学校」づくりに努める。 ・本校PR活動における多角の方策の立案に努める。 ・適切な接遇を心がけ、学校のイメージアップに努める。	3	・インスタグラムやHPからの情報発信は本校をPRできている。防災情報の発信にも有効。保護者向け文書の発信にも利用できないか。 ・学校の活動や中学生向けの情報をより多く発信する必要がある。 ・定期的に学年通信を発行、ある程度の情報提供はできている。 ・PTA会報の内容、発行時期等に工夫がなされた。 ・本校窓口に来られた来客に対し、適切で迅速な対応を心がけた。	3 ・都西のインスタグラムの工夫が素晴らしく、より親しみを感じるようになった。素晴らしい情報発信が出来ている。 ・情報が全保護者、生徒に行き渡っているか？ ・保護者向け文書にも活用はできないか。 ・PTA、生徒ともに積極的な地域ボランティアに参加し、役立つ体験から自尊心をつかんでほしい。
	地域教育力との連携	・関係部署、機関との連携を図る。	3	・ボランティア活動やフロンティア学、探究活動を通じ、多くの地域の施設や大学と連携できた。 ・交通教室、薬物乱用防止教室に外部専門家を活用できた。	3 ・素晴らしい連携が出来ている。 ・薬物乱用についてはメディアの関心も高い。薬物の恐ろしさを伝えることは重要。
	地域で活躍する人材づくり	・防災訓練及び防災教育をとおして、災害に対する指導の充実を図る。	3	・防災訓練では、想定時間内で避難が完了した。 ・防災シャッター等を下ろしての避難訓練など、より実践的な活動が実施ができないか。	3 ・防災士の講演をもらい、高校生で出来る役割の認識を高める事も必要。 ・災害に対する指導が生徒の生活にどう活かされているか、事例が知りたい。